

子どもの環境教育研究室 紹介 2011

大森 享（教授）

子どもの環境教育（学校環境教育）研究室では、以下のような研究を進めています。

1) 「持続可能性に向けた教育」を展望し、小学校を中心とした子どもの環境教育実践を分析する理論枠について研究を進めています。

- ① 「知ること」と「活動すること」という二つの視角から分析を進めています。
- ② 「知ること」には、主体の認識・感情の弁証法的関係、主体の認識・感情に働きかける知識、主体が知識を獲得する方法の問題があります。
- ③ 主体が対象にどのように関わるのかについては、当事者性を大切にされたモラル形成の問題、主体が対象にどのように関わるができるのかという実践的な技の問題、自分(たち)でも何とかできるという自己肯定感を育てるエンパワーメントの問題、持続可能なもう一つの国家・社会を想像し創造できる教育（例えばシティズンシップ教育＝「民主主義と政治の教育」）という主権者教育の問題があります。
- ④ モラル形成にとって、科学的認識と文学的認識の統一が必要で、文学的認識は、絵本・演劇教育などからのアプローチがあります。

2) アクションリサーチの研究視角は以下です。

- ① 子どもと自然の応答関係を耕す視角。
- ② 社会を創る知恵と力とわざを育む視角。
- ③ 「持続可能性に向けた教育」を進める日本の学校教育という実践的な視角。

3) 研究室で進めている具体的な研究テーマは以下です。

- ① “くしろ森の楽校・幼稚園” 実践と研究（プログラム開発・子どもの発達研究）。
- ② 沖縄 “平和・自然・人権” 研究（「社会を創る知恵と力とわざ」研究）。
- ③ 釧路市動物公園との協働実践と研究（文学的認識アプローチ研究）。
- ④ 小学校を中心とした子どもの環境教育実践研究（学校環境教育実践研究）。
- ⑤ “北海道東地域自然保護教育” 研究（野生生物保全教育研究）。
- ⑥ “デンマーク森の幼稚園” “スウェーデン森のムッレ” “イギリスシティズンシップ教育” 等ヨーロッパの教育実践研究（比較教育研究）。



フィンランドの小学校2年生の環境学習。
「フクロウを主人公に物語を創作しながら学習を進める『物語る教育』」。



沖縄平和学習。カチャーシーを踊る
真和志高校宮城千恵先生と研究室
卒業生。